

ちば県政を



身近に!



千葉県議会議員 しのぎふみのり (篠崎史範)

〒273-0125 鎌ヶ谷市初富本町 1-3-8
エクセルハイツ KEYAKI 2階C
Tel/Fax.047-412-3051 E-mail:fshinozaki@nifty.com
http://www.fshinozaki.com/



一般質問より 三番瀬のラムサール登録を求める

千葉県議会議員・篠崎史範は、今年の2月議会で一般質問を行った(県議会の一般質問は、会派間の申し合わせにより、一人あたり年間約1回)。取り上げたのは、三番瀬の保全、入札制度改革、成田新高速鉄道、北千葉道路など6項目。

そのうち三番瀬のラムサール条約への登録については、篠崎議員は、「条約では、生物多様性上重要な湿地を保全し、賢明な

利用を進めることが求められており、三番瀬を県の貴重な財産として将来にわたり保全していくために、ぜひとも条約への登録を実現させていってほしい」とし、登録に向けての進捗状況を質問した。

堂本暁子知事は、「ラムサールに登録されるといふことは、大変魅力のあることだと思ふ」としながらも、「登録を大変強く望んでおられる方と、まだ時期尚早なのではないか」という、両方の声がある。県としてはできるだけ早くに登録への必要要件を整えるよう、関係者間の調整に努め、前向きに取り組んでいきたい」と答弁した。

篠崎議員は、「解決しなければならぬ課題はないかと再質問した。堂本知事は「(登録により)漁場の生産力が束縛されるのではないか(との懸念を漁業者が持っている)」とし、「これらの懸念に対して、環境省や地元市、漁業関係者と勉強会を開いていく」と答えた。



県議会本会議での一般質問

ドクターヘリ、君津中央病院に配備へ



年末を目前に、千葉県で2機目のドクターヘリ(1面参照)が配備される。君津中央病院Ⅱ写真Ⅱに行ってきました。1機目が配備されている印旛村の日本医科大学千葉北総病院とあわせ、県内ほぼ全ての地域に15分以内で到達することができそうです。

ヘリには医療機器が装備され、医師・看護師も乗り込むため、搬送中も救急治療が行えます。年間予算は、1機あたり約1億6000万円。(篠)



地方の自立の時代、これからの千葉県は、どうあるべきか。全国各地を飛びまわり、地域のまちづくりに関わってきた、地域プランナーで前衆議院議員の若井やすひこ氏に聞いた。

(聞き手・篠崎史範)



若井やすひこ氏

■若井さんは、長い間全国各地で、「草の根」ともいえる形での地域づくりに取り組んできました。バブルが崩壊し、1993年に細川政権が成立した頃、私は熊本県に赴き、住民とともに「地域づくり」に没頭してまいりました。80年代のリゾート開発ブーム、いわゆる「地域開発計画」からは遠ざかりたかった。開発ではなく、その地域の自然や地場産業、暮らし

■先月、その熊本県の蒲島郁夫知事が、川辺川ダム建設に反対の意志を表明しました。ダム建設の価値よりも、球磨川・川辺川そのものの価値の方が高いと判断したこと、

人々の創意や努力といった、いわば「地域力」を結びつけ、発展させることが「地域づくり」と考えていたからです。

最近、似たような地域条件にもかかわらず、「地域力」に雲泥の差がつく例が目立つようになりました。自立性、自発性を発揮し、自らの特性を活かそうと日々努力してきた地域と、ただただ国・中央に決められたメニューをこなしているだけの地域との違いが、表れてきています。

注目すべきは、単なるダム悪玉論ではなく、地域固有の価値を尊重し、流域の風土を地域の共通の財産として重視したという点です。

熊本にいたる当時、私はしばしば現地を訪れました。川辺川の想像を絶する清流と風景、季節になると目に浮かぶ球磨川筋の尺鮎やそれをめぐる様々な生活、永い間に培われた暮らしに欠くことのできない地域の財産が、数限りなく残されています。



若井氏(左)と篠崎史範(右)

まちづくりは人づくり、住民の創意と努力こそが「地域力」です。 — 若井やすひこ

【ちばの四季・鎌ヶ谷市栗野の森】



■篠崎史範のプロフィール

1965年生まれ、43才。
電気通信大学卒。環境調査会社に勤務の後、99年、鎌ヶ谷市議会議員に当選。二期務める。07年、千葉県議会議員に当選。



古の時代から営々と築かれてきたヒトと自然の関わり、言わば風土も、ハコモノや道路と並ぶ大切な「社会資本」と言えるのではないのでしょうか。

一方、今やどの自治体も財政は窮乏しています。必要性の低い巨額の公共事業に対し、地元負担を受け入れる余裕もありません。

■千葉県も参加する八ッ場ダム(群馬県)建設が進んでいます。

これまで、川辺川ダムと並んで、八ッ場ダム計画の見直しも訴えてきました。もちろん、永きに渡る計画の中で、振り回され続けた地元住民の方々の辛苦も忘れてはなりません。公共事業見直しと、その後始末のための法整備が必要です。

かつての「構造改革」の中で三位一体改革が行われましたが、中央主導は変わらないまま。かえって地方の疲弊は極まり、大都市と地方との格差は拡大してしまいました。きちんと税源・権限を委譲すれば地方は元気になるし、各省庁の仕事も削れます。これこそが真の改革なのです。

■これからの地方分権は、どのように進めればよいですか？

千葉県は、人口が約600万人、GDPは約1638億ドル。EUのデンマーク、オーストリアとほぼ同じですが、社会、経済、文化のどれもが規模の割に見劣りしています。なぜか？ 日本では、地方が十分にその底力を発揮できていないからです。